

学校と地域の協働実践セミナー 三八・下北地区研修会

平成28年6月24日(金) 八戸市福祉公民館 参加者10名
平成28年7月 7日(木) 下北文化会館 参加者18名

学校と地域の協働実践セミナー三八地区研修会が6月24日(金)八戸市福祉公民館で、下北地区研修会が7月7日(木)下北文化会館で開催されました。

今回は、講師に弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 氏をお迎えして「地域の力を引き出す地域学校協働による活動～クラスの気になる子への対応の仕方～」と題して、発達障害の子どもに対してどのように接すればよいかについてお話いただきました。



発達障害の基本的理解

発達障害は基本的に、「学習障害 (LD)」「注意欠陥多動性障害 (ADHD)」「広汎性発達障害 (PDD) (自閉症スペクトラム (ASD))」の3つに分類され、それらの特徴について説明された後、児童生徒への支援の仕方について具体的にお話をいただきました。

○LD・ADHDの児童生徒への支援

- ①指示や説明は注目させて、具体的にわかりやすく話す。
- ②児童生徒をたくさん褒める。
- ③他の児童生徒や兄弟と比較しないようにする。
- ④学習に集中できる環境を作る。
- ⑤用事を頼むときは、一つずつにする。
- ⑥興奮している時は、叱ったり、なだめたりするのではなく、クールダウンするのを待つ。
- ⑦賞罰は事前に予告しておく。

○広汎性発達障害 (PDD)の児童生徒との関わり方

- ①障害について正しく理解する。
- ②落ち着いた環境を作る。
- ③見通しを持たせる工夫をする。
- ④説明や指示は簡単明瞭にする。
- ⑤約束を守る。
- ⑥言葉だけではなく、視覚に訴える工夫をする。
- ⑦やれそうな課題を準備する。
- ⑧社会生活を送る上で大切なことは、しっかりと教える。

上手なコミュニケーションの取り方

後半は、上手なコミュニケーションの取り方として、話をする際に「音量、トーン、速さ、姿勢、手振り身振り」を工夫することにより、伝わり方が違うということを参加者が実際に体験してみました。また、「関心を持って聞いているよ。」というメッセージを相手に伝えるためには「表情、姿勢、あいづち、抑揚」を工夫することが大切だということを学びました。



〈受講者の声〉

- ・対応の仕方などを教えていただき、お話を聞いて、子どもたちを見る視点が変わっていくような気がしました。(学校支援ボランティア)
- ・「障がい」というより「特性」という表現に改めて考えさせられました。(市町村教委職員)

〈講師紹介〉



小玉 有子 氏 弘前医療福祉大学 教授
弘前大学大学院 教育研究科学校教育専攻教育心理学分野修了
平成21年 弘前医療福祉大学 準教授 (H26.4から教授)
平成24年 秋田県インクルーシブ教育推進チーム 専門員
秋田看護福祉大学 非常勤講師